自動運転車両走行実験におけるアンケート調査結果について

資料4－②

1 概要

(1)目的 「トランジットモール2019・公共交通フェスタ」と同時に実施した、金公園内での自動運転車両走行実験において、アンケート調査を行った。得られた結果から、次年度以降の自動運転実証実験の実施に向けた課題や、検証すべき課題の抽出を行う。

(2)日時 ①モニターアンケート 11月17日（日） 11時～13時、14時～16時
②研究会委員等 11月16日（土） 15時～17時
③見学者アンケート 11月17日（日） 10時30分～16時

※①②自動運転車両の乗車前後それぞれでアンケートを実施。

(3)場所 金公園内（金町5-5地内）

2 調査項目

調査項目は以下の通り実施した。

把握項目	モニター	研究会委員等	見学者
1. 運転免許の保有状況	○	－	○
2. 自動車の保有と運転状況	○	－	○
3. 日常の移動手段	○	－	○
4. バス利用状況と満足度	○	－	○
5. 公共交通への自動運転車両導入に対する賛否、利用意向、信頼性	●	●	○
6. 自動運転車の認知度、期待事項、周知方法	○	○	○
7. 自動運転の乗り心地の満足度	○	○	－
8. 公道における自動運転実証実験への協力度	○	－	○
9. 「トランジットモール2019・公共交通フェスタ」における自動運転への理解度	○	－	○
10. 自動運転技術の導入の可否、意見	－	○（交通事業者のみ）	－
11. 属性	○	○	○

※「●」は乗車前、乗車後で変化を把握

3 アンケート調査実施状況と回収数

▲モニターアンケート調査
回収数：51

▲研究会委員等アンケート調査
回収数：11

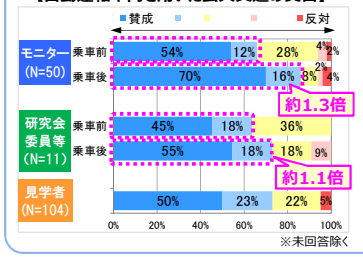
▲見学者アンケート調査
回収数：105

4 アンケート調査結果

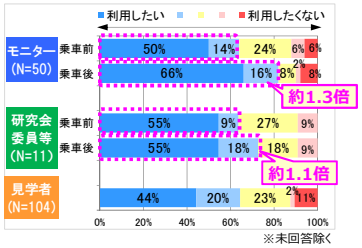
■公共交通への自動運転車両導入に対する賛否・利用意向・信頼性について

自動運転車両に乗車することで、「自動運転車両の公共交通への導入」に関して賛成する方が増加し、「自動運転車両を用いた公共交通の利用意向」が向上した。更に、「自動運転技術の信頼性」についても向上した。

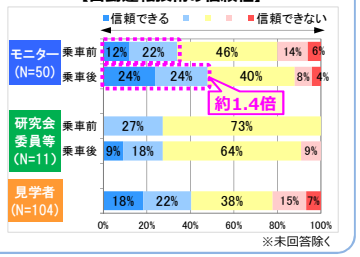
【自動運転車両を用いた公共交通の賛否】



【自動運転車両を用いた公共交通の利用意向】



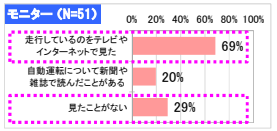
【自動運転技術の信頼性】

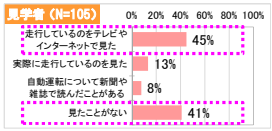


■自動運転車両の認知度・期待事項・周知方法について

【自動運転車両走行の見聞の経験】

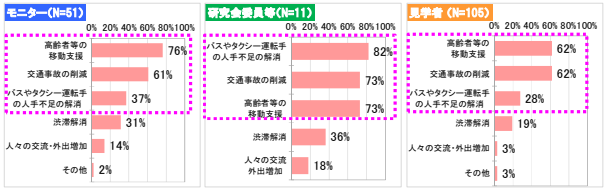
多くの方が自動運転車両が走行しているのをテレビやインターネットで見たことがあるが、実際に目にしたことのある方は少ない。





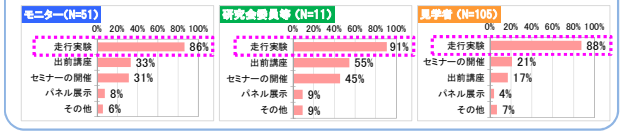
【自動運転車両の普及で期待すること】

期待が高い事項は、「高齢者等の移動手段（公共交通がない地域での移動手段の確保）」「交通事故の削減」「バスやタクシー運転手の人手不足の解消」である。



【市民が自動運転技術を理解するために有効なこと】

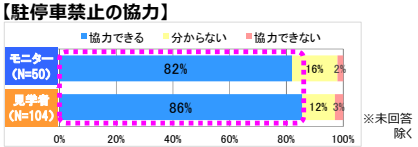
走行実験が、自動運転技術の理解に最も有効な手段。



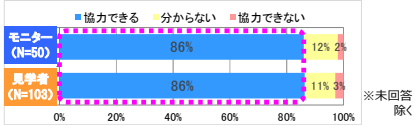
■公道における自動運転実証実験への協力度について

公道での自動運転実証実験時、自動運転車両走行区間において、駐停車禁止や無理な追い越しをしない事へ、概ね協力的である。

【駐停車禁止の協力】



【無理な追い越しをしない協力】



■その他自動運転についての自由意見

「もっとたくさんの走行実験をしてほしい。実際の道路での自動運転を体験したい。」

「高齢者のために早く利用できる事を希望します。」

「このような実験を実施し、認知度を上げることによって理解が深まると考えます。特に、小学校くらいの子供を対象に実施されると良いと考えます。」

5 まとめ

○自動運転車両が走行している状況等を実際に見たことがある方は僅かだが、公共交通への自動運転車両の導入による期待は大きい。

○自動運転車両に乗車した方は、自動運転車両の導入について賛同する割合が高くなっており、走行実験は市民の理解促進に有効な手段である。

○市民からは公道での走行実験や早期実現を望む声もあり、公道での走行実験時には協力する意向も高い。